

【会報 リサイクル デザイン】

発行日：1994年11月15日

編集・発行

横浜市資源リサイクル事業協同組合

〒220 横浜市区平沼1-33-1

東洋建物横浜ビル5階

TEL 045-316-4050 FAX 045-316-6050

94
第3号

RECYCLE Design



横浜市資源リサイクル事業協同組合

十月定例理事会

十月十九日(水)開催

古紙委員会からの報告。

でした。

リサイクル奨励金の支払いは(1月～6月分)、集団回収団体が10月中、業者は11月中旬になる予定。

県行政センター回収料金

増額要望の件では、現在年60万円に対し、2%～3%アップの予想。

10月27日に組合事務所にディーラーと回収業者が意見交換会を行う。

金属委員会は粗大部会が不法投棄物撤去作業を10月31日・11月1日・11月15日に行う。

また当組合の金属委員会の研修会として、11月26日(土)、11月27日(日)に那須にある中田屋(株)の非鉄自動選別機の工場見学に行く予定。

事業研究委員会からは、アルミ缶回収実績が8月が72t 280kg、9月が55t 260kg

10月19日(水)に東商ホールにて、リサイクル推進功労者等表彰式に出席。リサイクル推進協議会から会長賞を受賞。

次にびん・缶の回収地域は現在の30%が10月26日から45%に拡大、平成7年末広工場稼働後は、市内100%の地域から回収実施予定。

「横浜市における古紙分別収集システムの提案」について杉山専務理事から別紙資料により説明あり。意見・質疑応答後当組合から古紙分別収集システムとして、市当局へ提案することと承認されました。

総務委員会からは平成7年新年会開催の件で開催日は平成7年1月13日(金)。会場等はまだ未定。

次に庶務事項として、当

組合の概要作成について。6ページから8ページ位の構成。見開き1ページを各委員会に作成して頂く予定。作成スケジュールとして11月中素案を持ち寄り、原稿を印刷にまわし、3月決算までに完了したいとのこと。組合手帳の作成について。9月理事会提案の継続審議。備考へ組合員名簿、廃棄物処理法、リサイクル法を入れるという意見も出ています。次回理事会開催日は11月16日(水)です。

組合新規加入者

大塚産業有限公司

代表者 渡辺 武

現在の組合員数は一一一名です。



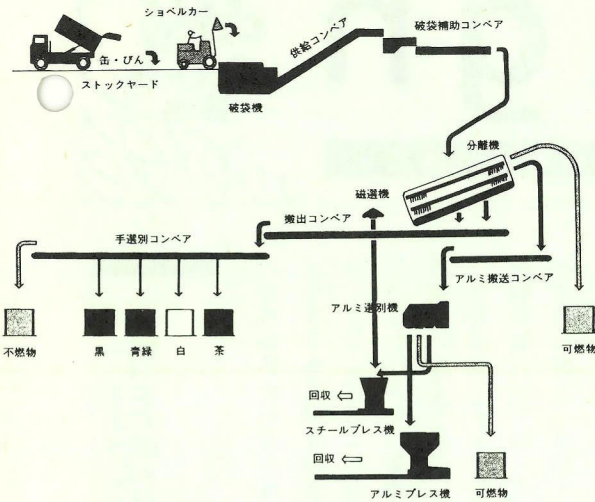


回収したものはどうなるの？

横浜市北部資源選別センター編



■缶・びんの選別システムのフローシート



平成6年10月現在、横浜市の約30%の地域で空き缶・空きビンの分別収集が行われています。

収集された缶・ビンは、『横浜市北部資源選別センター』へ運ばれます。選別センターはJR横浜線中山駅から「新横浜行」のバスに乗り、「落合橋」で降りるとすぐのところにあります。

ここでは24人の作業員の人達が日曜日を除いて毎日作業をしています。

この選別センターでは、どんな作業が行われているのでしょうか？

まず市の回収車が回収してきたビン・缶をホッパーに投入します。ホッパー満了の際は、ストックヤードに降ろします。ヤードに降ろしたビン・缶は必要に応じてシャベルローダーでホッパーに投入します。そこから破袋機を通り、供給コンベアにより、破袋補助コンベアに送られます。ここでは、破袋機で破れなかった袋類及び不適物を取り除



▶手選別の作業は、かなり大変で慣れるまでは目が回りそうになるそうです。

きます。次に分離機で重さを利用し、可燃ごみ・缶・びんに自動的に分けられます。そして搬送コンベアを通り、磁選機でスチール缶・アルミ缶と分けられ、それぞれ溶解・運搬しやすいよう、プレス機でプレスされます。

残ったビンの方は、搬送コンベアへ行き、ここで茶・白・青緑・黒の色別に人の手で分けられます。

ここまでがセンターでの一連の作業になっています。今年の夏は猛暑で、回収

量も去年より多く、作業している人達は大変でした。

また選別したアルミ缶はアルミ製品、スチール缶は建築鋼材、ビンは再び、ビンと再生工場生まれ変わります。

リサイクル組合の北部出張所の所長である山岡明雄さんに、作業をしていて困ることは何か聞いてみました。

「一番困ることは、ビンや缶と一緒に紙おむつ等のごみが入っていること。センターで働いている人は皆資源を選別する仕事をしているのであって、ごみを選別しているわけではないのです。今までごみを一緒に出していた人は、これからごみはごみの目に出して下さい。」というお返事。

回収に出すときは、飲料容器という決められた物だけを出して下さいね。

(10月26日から市内45%の地域になりました。)

オフィス古紙共同回収事業

会員企業訪問

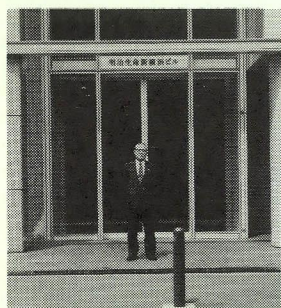
第2回

明生不動産管理(株)

今回は、明治生命の建物を管理している明生不動産管理(株)の下斗米さんにお話を聞いてみました。

最近新聞や雑誌等でもリサイクルの問題について頻繁に取り上げられているし、ごみ処理場がなくなってきたというのを耳にします。以前名古屋にいたときもごみに関してはきちんとしていたので、横浜にきてからもこういう事をするのが当たり前だと思っていました。

このプロジェクトに参加するときもテナントの代表の人達と話し合いをしたけれど、皆さん面倒臭いとい



った感じはなく、当然やるべきだという印象を受けました。また回収業者さんもおこのビルが出来た昨年の6月からお世話になつていて説明しにきてくれたりもしました。

回収ボックスを使つて分別していますが、私よりも堀田さん(社員の人)の方が習慣付いてるみたいです。分別に関してはちよつと分らないところがあるので分り易いマニュアルを作つてほしいと思つてます。

※下斗米さんは10月に名古屋へ転勤になつてしまいましたが、これからもリサイクル活動を続けて下さい。

9月回収実績

参加企業 11社
14,240kg
でした。

シンポジウム

10月12日に神奈川県総合センターで、『リサイクル社会実現に向けて』古紙リサイクル』というテーマで、リサイクル運動を県民に定着させる為、消費者団体・事業者・行政等が集まり、リサイクルの現状について、リサイクル社会構築に向けてどのようにしたらよいか討議されました。

当日は、読売新聞社解説部次長岡島成行氏が環境問

題について講演され、その後川崎牛乳パックの再利用を考える連絡会代表大倉朝さんがこれまでの会の経過、本州製紙(株)加藤利雄氏が再生紙の現状と今後の課題、平塚市環境部環境衛生業務課笹尾正雄氏が平塚の集団回収方法を説明し、質疑応答されました。会場にはたくさんの方がきていて皆さん熱心に話を聞かれていました。

リサイクルしやすい製品づくりと再生品を利用する社会システムを考える事をテーマに10月14日、10月16日、横浜新都市ビルで'94かながわガボロジー展(主催・県などが開催されました。神奈川県資源組合、アルミニウムリサイクル協会、東京電力等30団体がブースを出展しました。

各ブースでは、廃材を利用した新製品やリサイクルを念頭において開発された

商品が展示されたりしました。中でもアルミニウム回収機、更生タイヤ、反毛機、再生ウエス等が参加者の目をひき、担当者にさかんに質問をする主婦や小中学生の姿が目立ちました。また飲料容器の廃チップを使った「はり絵」は家族ぐるみで参加していました。



'94 かながわガボロジー展開催

イベント

9月24・25日に横浜そう地下入口前の新都市プラザで、首都圏の都県や政令市で作る七都県市首脳会議が各自治体を回って資源ごみの再生品にもつと目を向けてもらおうと、展示会『リサイクルキャラバン』を横浜市からスタートしました。当日はリサイクル品の展示・クイズコーナー等があり、子供達も積極的に参加していました。



また再生品の品質を知ってもらう為、100%再生紙の「トレットペーパー」「リサイクルセブン」が無料配布されました。これを機会に皆さんも再生品を使用してみてはいかがでしょうか？

リサイクルに伴う買取価格表 (平成6年10月現在)

分 類	品 名	金 額
古 紙 類	新 聞	1kg 0～ 1円
	雑 誌	1kg -3～ 0円
	ダンボール	1kg -1～ 0円
衣 類くず		1kg 0～ 1円
*アルミ缶のみ 選別した場合	アルミ缶	1kg 5～15円

循環型リサイクル社会構築に寄与していく為に、我々回収業者も一致団結しなければなりません。この価格表は横浜市に於いて資源回収の指針に成るよう設定し、毎月一回見直しをしております。各回収実施団体様にも、上記価格での取り引きをお願いしております。

組合員紹介

vol. 2

(有)秋山商店
秋山照雄さん

西区浅間町2-109-8
TEL.311-3448

リサイクル組合の組合員は、東西南北の4つの支部に分かれています。今回は東部支部の秋山支部長です。

(有)秋山商店は、集団回収や粗大ごみ等の仕事をしてるので、御存知の人も多いかと思います。

この仕事は秋山さんのお父さんが戦後まもなく始められ、秋山さんが手伝うよ



うになったのは、昭和40年頃からです。その時はまだサラリーマンをしていたので、仕事から帰ってきてたまに手伝うといった感じだったそうです。それからいろいろあつて結局会社を辞めてこの仕事を本格的に始めるようになったそうです。

苦労したことはかなりあったのではないですか？と聞いたところ意外にも「元々呑気な性格なので、全然苦労してないよ。」という返事。でも奥さんはそれなりに苦労されたみたいです。(実は話を伺っている間ずっとそばに奥さんがいたのです。)

あと心配なことは、今手伝つてくれている息子さんに、お嫁さんを早くもらつてほしいといふことでした。

リサイクル型都市横浜をデザインする人 リサイクル人紹介

市会議員(旭区)

あお かけ たか こ
青 景 孝 子



横浜市会8年間の活動で「ゴミの分別収集」「高齢者福祉」「飲み水の問題」などにおいて、多くの成果を上げる。

生産―流通―消費の循環型ゴミ政策を提案し、日本初の再利用等促進物の指定に向けて運動を展開中。